

現地開催日程（案）

7月21日(木)

日 時	行事及び移動手段等	備 考
9:05	羽田空港 発 JAL1865便	
10:45	鹿児島空港 着	
11:00	鹿児島空港 発 バスで移動	
12:30 ~ 13:10	(1)国立水俣病研究センター <昼食+施設説明> バスで移動	
13:20 ~ 14:05	(2)ほっとはうす視察 バスで移動	・胎児性水俣病患者の通所型授産施設
14:20 ~ 15:50	(3)水俣病情報センター 水俣病関係団体からのヒアリング バスで移動 途中、湯堂・茂道等の水俣病患者多発集落の視察？	(水俣病患者平和会、水俣病患者連合、水俣病被害者の会全国連絡会)
16:30 ~ 17:15	(4)鹿児島県出水市「漁村の家」 水俣病関係団体からのヒアリング バスで移動	(水俣病出水の会)
18:45	鹿児島空港 着 <夕食> 空港内飲食店	
19:40	鹿児島空港 発 JAL1878便	
21:20	羽田空港 着	

7月26日(火)

日 時	行事及び移動手段等	備 考
9:05 10:45 11:00	羽田空港 発 JAL1863便 鹿児島空港 着 鹿児島空港 発 バスで移動	
12:30 ~ 13:10	<昼食> 福田農場 バスで移動	・ 廃材のリサイクルなどにも取り組む観光農園
13:20 ~ 13:50	(1)「明水園」視察 バスで移動	・ 水俣病患者の療養施設。入園者の医療やリハビリを実施
14:05頃	(2)チッソ水俣工場、百間排水口 視察（車窓から） バスで移動	・ 水俣病の原因となった有機水銀を排出した工場及びその排水口
14:20 ~ 14:50	(3)相思社歴史考証館視察 バスで移動	・ 水俣病を記録し伝えるために患者が中心となって開設した資料館
15:10 ~ 15:20	(4)埋立地エコパーク・親水護岸 視察 バスで移動	・ 水俣湾の水銀に汚染された汚泥を浚渫し、封じ込めた埋立地
15:30 ~ 15:40	(5)水俣メモリアル視察 徒歩で移動	・ 水俣病犠牲者の慰霊、鎮魂のための施設
15:45 ~ 17:15	(6)水俣市立水俣病資料館 視察と語り部講話 バスで移動	・ 水俣病に関する貴重な資料やパネルを収集・展示し、水俣病を分かりやすく説明
18:45 ~ 19:20	鹿児島空港 着 <夕食> 空港内飲食店	
19:40 21:20	鹿児島空港 発 JAL1878便 羽田空港 着	

視察予定地の概要

資料館等

施設名称	概要
水俣市立水俣病資料館 http://www7.ocn.ne.jp/~mimuseum/	水俣病の経験から得た貴重な教訓を人類への警鐘として継承・発信していくことを目的として1993(平成5)年に開設。
国立水俣病総合研究センター http://www.nimd.go.jp/	水俣病に関する総合的医学的研究を実施し、水俣病患者の医療の向上を図ること、水俣病発生地域としての特性を生かした研究機能の充実を図ることを目的として、世界に向けて水俣病の教訓を発信し、環境と人との健康に係わる分野の国際的な貢献を担う研究を行うために、1978(昭和53)年に開設。
水俣病情報センター http://www.nimd.go.jp/archives/index.html	国立水俣病総合研究センターの付属施設として2001(平成13)年に開設。水俣病に関する資料、情報を提供することを目的として設立された。
財団法人水俣病センター相思社 (歴史考証館) http://www.soshisha.org/	「患者・家族の拠り所」として、1974(昭和49)年に活動を開始。水俣病歴史考証館(水俣病の被害や患者の闘い、不知火海とその沿岸住民が失ったもの、チッソ・行政による加害行為などを記録し展示)の運営、水俣病事件を伝える活動(案内・講演・パンフ作成・機関誌「ごんずい」発行など)、資料収集・整備・提供・情報発信などの活動や、活動を経済的に支えるための低農薬柑橘類・無農薬茶・低農薬林檎・水俣病関連書籍などの販売を行っている。

水俣病関係拠点

チッソ水俣本部・水俣製造所	水俣市の中心部に位置するチッソの工場。1908(明治41)年に発足。アセチレン有機合成化学の開発工場であり、戦前の日本化学工業界の技術をリードする存在であった。昭和7年から43年までアセトアルデヒドを製造。現在では、広大な用地のうち工場として稼働しているのは約5分の1程度であるが、液晶、電子材料、ファインケミカルといった最先端商品の生産にシフトし、チッソの中核工場としての役割を担っている。
---------------	--

百間排水口	チッソが有機水銀を含む排水を水俣湾へ流した排水口。
水俣メモリアル	水俣病により犠牲となられた方々に対する慰霊・鎮魂、水俣病の経験を踏まえ、災禍を再び繰り返さないことの祈念、水俣病の教訓を後世に伝えることを目的として、水俣市が水俣病公式確認から40年にあたる1996(平成8)年に整備。毎年水俣病犠牲者慰霊式をこの場所で開催。水俣病犠牲者名簿収納箱が設置。
親水護岸	水俣湾に堆積した水銀を含むヘドロを埋め立てた場所の西側、恋路島を目の前にした場所に整備された幅40m、長さ465m護岸遊歩道。
エコパーク	元々は海で百間港という港があったが、水俣病の原因となった有機水銀のヘドロが堆積しているため埋め立てられ、現在は公園や運動場などが整備。

福祉・介護関係

水俣市立明水園	1972(昭和47)年に開設、社会福祉法人水俣市社会福祉事業団が運営する重症心身障害児(者)施設。水俣病の認定患者を対象に入園者の健康保持・医療・介護・リハビリテーション日常生活援助などを実施。病床数65床。
社会福祉法人さかえの杜 ほっとはうす	1998(平成10)年11月に、胎児性・小児性水俣患者の集いの場、共同作業所として開設。喫茶コーナー、地域の学校や教育旅行生へ水俣病を伝える活動、押し花の加工品、ラベンダーポプリ等の製作・販売、パン・菓子・リサイクル製品の販売等を実施。